

あんすぼし 杏橋 グラデーション 第3回 コンマツプ。



4月 大白目の怪

津山六郎が怪しげなものを見たのは、日曜日の夕方だった。日が沈もうとしている十八時半、商店街の菅生道具店を出たところだった。川からただよってくる湿った空気が、霧のようになって

吹いてくる。店内に暖房が効いていた分、余計にひんやりとする。六郎は肩をすぼめて腕を組み、指をかばうように脇の下にさしこむ。今買ったばかりの工作用品が袋の中でかちゃかちゃと音を立てた。風の吹いてくるほうを見ると、杏橋のむこうに夕焼けが見えた。かすんでいるようで、月でもあれば朧に見えただ